



ぼくたちのスープ運動 うんどう

デイヴィス作 しぶやひろこ 渋谷弘子訳 ひょうろんしゃ 評論社

ぼくが入院にゅういんしていたとき、小児病棟しょうびょうどうで出会であったりとたてた小指こゆびの誓ちかい。それは、「一年間いちねんかん、だれかにいいことをし続つづけて、一年後いちねんごのきょう、世よの中なかを変かえることができたか、ふたりでたしかめる」というもの。

その大事だいじな誓ちかいを守るためまも、ぼくは、ママお手製てせいのスープが入はいったジャーを、ホームレスのハリーのテントの前まえにおいた。

ぼくがハリーにさしだした一杯いっぱいのスープをきっかけに、ぼくたちのスープ運動うんどうは、周囲しゅういの人を巻まき込んで、世界中せかいじゅうに広ひろがっていく。

